

VU (絶滅危惧Ⅱ類)

翼手目 キクガシラコウモリ科

カテゴリー判定基準：B-1, 2

ヤエヤマコキクガシラコウモリ

Rhinolophus perditus Andersen, 1918

英名 : Iriomote least horseshoe bat

旧レッドリストカテゴリー		
1991	1998	2007
—	—	—

日本固有種

西表島と石垣島から知られる小型のキクガシラコウモリの仲間 (*Rhinolophus*属) である。現在確認される生息個体数はそれほど少なくないが、今後も続くであろう土地改変による洞窟の消失や洞窟内環境の悪化により、絶滅の危機が突然高まる可能性もある。

The Yaeyama least horseshoe bat, *Rhinolophus perditus*, is endemic to Ishigaki and Iriomote Islands of the Yaeyama Islands. Many large breeding colonies used to occur on this island but now it is not possible to find any maternity colony consisting of more than 500 animals. As the area of the islands is 511.73 km², most of which has been changed to agricultural land and urban districts, the extent of suitable habitat has been estimated to be less than 500 km². Furthermore, the remaining forest habitat in which the bats forage for food is severely fragmented and decreasing rapidly. In some stalactite caves, bats have disappeared due to overuse for sightseeing.

基礎情報

■形態 小型のキクガシラコウモリの仲間で、前腕長40~44mm、頭胴長41~50mm、尾長17.5~21.5mmとオキナワコキクガシラコウモリ (*R. pumilus pumilus*) よりやや大きく、体毛は褐色系である。

■分布域 石垣島と西表島に分布する。なお、前回レッドリストでは石垣島産の亜種ヤエヤマコキクガシラコウモリ (EN) と、西表島産の亜種イリオモテコキクガシラコウモリ (EN) として評価したが、今回は種として評価した。

■生息環境 常緑広葉樹の自然林に生息する。

■生活史 昼間のねぐらは洞窟であり、夜間に採餌のために洞外に出かける。年に1回、初夏に1仔を出産する。おもにチョウ目、コガネムシ目、ハエ目、ハチ目に属する昆虫類を森林内で捕食することが知られる。

現在の生息状況

■分布域の現況 石垣島と西表島の洞窟のある地域でみられる。両島の合計面積は511.73km²であるが、都市部には生息しないので、生息地面積は500km²を超えないであろう。

■生息地の現況 生息が確認されていた洞窟周辺が牧場や農地にされたり、入口が塞がれたりたことで消失したり、洞窟内の環境が乾燥化などにより悪化し、利用されなくなった洞窟がいくつも見られる。このようなことは今後、他の洞窟でも起こる可能性がある。また観光地化され、ほとんど姿が見られなくなった洞窟もある。さらには餌場である森林の減少などにより、大きなコロニーが見られなくなっている例もある。最近の石垣島における空港建設地にはコウモリ類が利用する洞窟がいくつもあり、保全対策が取られている。このような保全対策やモニター調査が長期的に行われることが望まれる。

■個体数の現況 1997~99年には西表島で比較的個体数の多いと思われる大富洞で毎年3,000

頭の幼獣が生まれていたと報告されているが、他の生息洞窟における資料は公表されていない。石垣島では、新石垣空港建設にともなうアセスメントに関する公表資料によると、2004年から2011年において石垣島全体における個体数は5,000～8,000頭と報告されている。しかし、かつてたくさん生息していたと報告されていたいくつもの洞窟で生息が確認されなくなっている。

存続を脅かす要因

森林伐採(11)、草地開発(16)、土地造成(23)、洞内の環境変化(18)。昼間のねぐらである洞窟の埋め立て、さらには環境条件が大幅に変化する観光鍾乳洞などへの改変や洞窟の周囲の農地化などへの改変による洞内の乾燥化が第一に考えられる。続いて餌となる昆虫類が年中発生する森林の激減が挙げられる。

保護対策の現状

とくになし。

特記事項

ねぐら(とくに繁殖用)である洞窟の保護(周辺の改変による洞内への影響を防ぐことを含む)や周辺のおもな餌場となる広葉樹林の保護が重要である。

参考文献

- 阿部永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明, 2008. 日本の哺乳類改訂2版. 東海大学出版会, 秦野, 206pp.
- Andersen, K., 1918. Diagnoses of new bats of the Families Rhinolophidae and Megadermatidae. Annals and Magazin of Natural History, Ser. 9, 2: 374-384.
- Fukui, D., K. Okazaki and K. Maeda, 2009. Diet of three sympatric insectivorous bat species on Ishigaki Island, Japan. Endangered Species Research, 8: 117-128.
- Hill, J. E. and M. Yoshiyuki, 1980. A new species of *Rhinolophus* (Chiroptera, Rhinolophidae) from Iriomote Island, Ryukyu Islands, with notes on the Asiatic members of the *Rhinolophus pusillus* group. Bull. Nat. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A, 6: 179-189.
- 前田喜四雄・橋本肇, 2002. 西表島産3種の小型コウモリ類の採餌環境(1)いわゆる開けた場所と樹木に覆われた場所の差異. 東洋蝙蝠研究所紀要, (2): 18-20.
- 日本哺乳類学会編, 1997. レッドデータ日本の哺乳類. 文一総合出版, 東京, 279pp.
- 沖縄県土木建設部新石垣空港課, 2012. 新石垣空港小型コウモリ類検討委員会公表資料.
- 沖縄県八重山支庁農業水産整備課・財団法人沖縄県環境科学センター, 2003. 平成14年度大富地区モニタリング調査報告書. 沖縄県八重山支庁, 25pp.

執筆者：前田喜四雄（奈良教育大学 名誉教授）